

次期中間処理施設整備事業「地域振興策」に関する意見等

印西地区環境整備事業組合
次期中間処理施設整備事業
地域振興策検討委員会 委員長 福川 裕一 様

意見

平成 27 年 6 月 27 日提出

委員名 渡邊 忠明

1. 資料、情報の提供は1週間前、遅くとも4、5日前に
今回は、直前でほかの用件と重なり1時間も拝見できず意見を論理的に整理する時間がなく、表現も乱暴とならざるを得なかった。
見映えより中味の重視を。
2. 地域振興策検討材料としての地元の情報を
地域に根差した振興策は地域の構造の把握から生まれる。
地区の年齢構成、就業構造（地元で働く、地区外で働き地区では寝食のみ等々の構造）
営農実態（作目の種類とその面積、従事者数）、商業等他の産業の有無は？等々。
要するに「3. 地域の課題の分析」の裏付けは？⇒振興策のシーズ、種子の確認に役立つ。
3. 成功している地域活性化事例に共通することは
売り込み先、誘客先等、ニーズ、需要を明らかにした上で、小さく産んで大きく育てる「リーン・スタートアップ（lean ぜい肉がなく引き締まって痩せた）」である。
住んでいる人が投資しリスクを担うことで真剣になる。
大きな一つの施設であれもこれもではなく、小さな特化型の施設が集積して、結果的に多くの人ができる環境の実現、No 1でなく Only 1の追求が成功の基。
選択と集中。農で言えば六次産業化とともに半農半「X」。で身の丈に合ったキラリと光る吉田地区に相応しい「X」は何か。
売る量よりも利益率。等々、地域に根差し、地域特性を活かしながら地に足のついた検討をお願いしたい。
外見よりも中味の充実を。
4. 地域活性化、地元の実践者が知の先端
吉田地区には、独創的な人、活動的な人、最近、地域活性化の若手学識者の言うトンガッタ人が、頑張っていると感じてきたので、その知を尊重したい。